

<b>〔科目名〕</b> <p style="text-align: center;">教育課程論</p>	<b>〔単位数〕</b> <p style="text-align: center;">1 単位</p>	<b>〔科目区分〕</b> <p style="text-align: center;">教職課程(必修科目)</p>				
<b>〔担当者〕</b> <p style="text-align: center;">西村 吉弘</p>	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間: 事前にメールでアポを取る。 場所: 619 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> <p style="text-align: center;">講義及び演習</p>				
<b>〔科目の概要〕</b> <p>基本的な教育課程の仕組みを理解し、今日の学校教育が規定されている要因について学ぶ。そして、教育課程編成の実務的な側面に留意し、教職のための実践力を育む。</p> <p>また、教育課程編成の構成とともに、道德教育、教育評価、カリキュラム開発等について広く概観し、理解を深める。これらを通して、現代の教育問題やこれからの学校教育の在り方についても考えていく。</p> <p>基本的に、講義形式の授業を行う。また、適宜アクティブラーニングの手法を活用し、授業を実施する。毎回の授業の後半に、講義内容に関連した検討課題を出すので、講義で学習したことを活かし、自身の見解をまとめられるように努めてもらいたい。</p>						
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>教育課程は、学校教育の学習内容を規定する基盤となるものである。そのため、学習指導要領の目的や内容を深く理解し、それらを教育実践に繋げる思考を育む必要がある。</p> <p>現在、学習指導要領は「最低基準」としての性格を有するものである。それは、即ち学習指導要領の内容を教えることに留まらず、教師の不断の努力により多くの豊かな教育実践を展開することが求められていると言える。そのような、教員個々の独自の実践を、追究することができるようになるための資質・能力を磨く。</p>						
<b>〔科目の到達目標〕</b> <p>教育課程の枠組みを理解し、教育実践のための基礎的な力を獲得する。また、知識の修得と共に、それを活用し口頭発表や論述においてアウトプットできる力を獲得する。</p>						
<b>〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕</b>						
<p style="text-align: center;">学部</p>				<p style="text-align: center;">学科</p>		
<p style="text-align: center;">DP1</p>	<p style="text-align: center;">DP2</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p style="text-align: center;">DP3</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p style="text-align: center;">DP4</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p style="text-align: center;">DP1</p>	<p style="text-align: center;">DP2</p>	<p style="text-align: center;">DP3</p>
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>特筆すべきものがあつた場合、コメントをする。尚、学生との対話は歓迎する。</p>						
<b>〔教科書〕</b> <p>古川治・矢野裕俊編著『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房(2019)</p>						
<b>〔指定図書〕</b> <p>必要に応じて、授業中に案内する。</p>						
<b>〔参考書〕</b> <p>必要に応じて、授業中に案内する。</p>						
<b>〔前提科目〕</b> <p>関連する、各教職科目を履修しておくこと。</p>						

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>基本的に、期末試験とレポートで判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。</p> <p>評価基準の割合: 期末試験 80 点、レポート 15 点。平常点 5 点。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程の意義</p> <p>内 容: 教育課程の概念や様々なカリキュラムの定義を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程の編成と諸要因</p> <p>内 容: 教育課程編成の方法や手順、学校教育目標を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』 資料映像 1</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 小学校学習指導要領と教育課程編成の実際</p> <p>内 容: 初等教育の目的や、社会に開かれた教育課程、指導計画を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』 KJ 法 1 回目</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中学校学習指導要領と教育課程編成の実際</p> <p>内 容: 中等教育の目的や、学習指導要領の方向性、道徳の教科化を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』 資料映像 2</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際</p> <p>内 容: 高等学校教育課程の基本的枠組みや 5 つの原則、中高一貫教育、特別活動を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』 KJ 法 2 回目</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連</p> <p>内 容: カリキュラム・マネジメントや、学級経営と教育課程の関連性、キャリア教育を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』 資料映像の検討のまとめ</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新学習指導要領と教育課程の編成とまとめ</p> <p>内 容: 新学習指導要領の目的やねらいを学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』</p>
試 験	<p>レポートまたは論述試験。 ※ 試験内容が決まり次第、案内する。</p>